

—————(10) No. 4,
61~65

1977 (昭和52) 年

—————(11) No. 1,
63~67

原田文夫: 木曽ヒノキ林(5) 木曽ヒノキ林を巡る
木曽史へのアプローチ No. 1, 49~55

千村速男: 高山植物 (alpine plants) (12) No. 2,
52~55

横内 斎: 白馬連山の植物目録とその地史的分布
(1) No. 3, 37~44

斎藤章一郎: 王滝における木曽ヒノキの成因を求
めて(1) No. 3, 52~58

千村速男: 高山植物 (alpine plants) (3) No. 4,
40~45

横内 斎: 白馬連山の植物目録とその地史的分布
(2) No. 4, 58~63

1978 (昭和53) 年

斎藤章一郎: 王滝における木曽ヒノキの成因を求
めて(2) No. 1, 56~61

原田文夫: 木曽ヒノキ林(6) No. 2, 13~22

斎藤章一郎: 王滝における木曽ヒノキの成因を求
めて(完) No. 2, 50~56

△ : 木曽五木 (写真) ヒノキ, サワラ,
ネズコ, ヒバ, コウヤマキ No. 2, 口絵, 49(説明)

1979 (昭和54) 年

原田文夫: 木曽ヒノキ林(7) No. 1, 33~40

—————(8) 木曽ヒノキ林と木曽
の人々とのかわり No. 2, 46~50

岳 飄: オウレン (黄蓮) の仲間 No. 2, 36

千村速男: 松虫草の花 (口絵写真)

1980 (昭和55) 年

原田文夫: 木曽ヒノキ林(9) 木曽ヒノキ林と木曽
の人々とのかわり No. 1, 62~67

この目録の作成に当っては、横内斎所蔵の長野営
林局報と長野林友より抜粋しました。なお不足分17
冊については、長野営林局の千村速男氏の御協力を
いただきました。厚く御礼申し上げます。

(横内 斎・横内文人)

[長野県植物誌 資料Ⅳ]

「信濃教育」に掲載されたフロラ関係文献目録(2)

会誌12号に続いて、1946 (昭21) 年1月発行の、
709号から、1980 (昭55) 年1月発行の1118号まで
に掲載されたフロラ関係の報文をリストアップする。

1947 (昭和22) 年

細野淳: 北安曇郡下に於ける食用となる動植物の
調査 (一) No. 725, 34~38

1947 (昭和22) 年

細野淳: 北安曇郡下に於ける食用となる動植物の
調査 (二) No. 727, 35~39

1947 (昭和22) 年

岡西良治: 霧ヶ峰八島ヶ原における池水と接合植
物 No. 731, 5~12

1948 (昭和23) 年

横内斎: 信濃産燐化植物 No. 737, 24~35

西牧荘十郎: 植物採集随想 No. 737, 35~37

1949 (昭和24) 年

横内斎: 乗鞍岳高山帯の植物 No. 749, 31~36

1950 (昭和25) 年

白倉盛男: 信濃における「かはのり」の新産地
No. 766, 58~61

1951 (昭和26) 年

奥原弘人: 賤母国有林の植物 No. 771, 25~29

1953 (昭和28) 年

五味新平: 霧ヶ峰高層湿原について No. 804,
43~48

1955 (昭和30) 年

佐藤邦雄: ヤドリギ No. 820, 61~64

1956 (昭和31) 年

草間博: 佐久の燐化植物 No. 833, 39~45

西牧荘十郎: 斑尾山の植物調査から No. 804, 64~67

山崎林治: 信濃博物会 No. 841, 92~95

1957 (昭和32) 年

宮下忠義: 伊那谷の生物ごよみ No. 845, 59~66

1958 (昭和34) 年

下原恒男: 志賀山を中心とする植物群落 No. 878,
79~89

1961 (昭和37) 年

浅野一男: 三信国境地帯のコセリバオウレンの分
布について No. 906, 80~83

1963 (昭和39) 年

松田行雄: 長野県におけるミズゴケ類の分布 No.
929, 59~64

1965 (昭和40) 年

高橋勲: 奥信濃における帰化植物 Na 952, 64~70

1968 (昭和43) 年

山田謙二: 志賀高原の湿原植物について Na 985, 60~64

宮下義貫: 信州産ニラ属の染色体について

Na 982, 48~53

1971 (昭和46) 年

柄山祐希: 戸台川沿岸の植物 Na 1021, 61~65

1972 (昭和47) 年

荒井清司: 志賀高原の蘚苔類 Na 1034, 62~66

1973 (昭和48) 年

伊藤静夫: 植物社会と植生図 Na 1047, 59~67

1974 (昭和49) 年

池田貢: センニンソウの殖やし方 Na 1050, 66~03

宮下喜男: 扁桃腺ときつねのぼたん Na 1052, 32~35

今井建樹: 諏訪湖渋のエゴの植物 - 失われ行く

原生の植物景観 Na 1053, 37~49

1975 (昭和50) 年

池田貢: 仙人草鋸屑内で発芽 Na 1061, 104~109

堀米富平: 美ヶ原の自然 Na 1064, 17~19

草間勉: 大山桜の研究 Na 1064, 29~35

池田登志男: 浅間連峰の植物 Na 1066, 49~58

根崎健造: 仙人草実験記 Na 1067, 28~31

中村滋視: なんじゃもんじゃの木 Na 1076, 71~74

1976 (昭和51) 年

山崎林治: 郷土の高山植物 (1) 信陽高山植物図鑑
ゴゼンタチバナ, ツマトリソウ, シラネアオイ, コ
マクサ Na 1073

————— : ————— (2) —————

ハクサンオミナエシ, サンカヨウ, イチヨウラン,
オヤマリンドウ, イワカガミ, シロバナジャクナゲ,
Na 1074

————— : ————— (3) —————

キヌガサソウ, ビランジ, ミヤマスマレ, オオバミ
ゾホウズキ Na 1075

堀米富平: 日本の樹木・郷土の花に思う Na 1075,
25~27

山崎林治: 郷土の高山植物 (4) 信陽高山植物図鑑
ホテイラン, ミヤママンネングサ, クルマユリ, シ
ロバナノヘビイチゴ Na 1076

————— : ————— (5) —————

ウサギギク, テガタチドリ, クロユリ, ハゴロモグ
サ, カライトソウ

————— : ————— (6) —————

キバナノアツモリソウ, ツバメオモト, マイズルソ

ウ, リンネソウ Na 1078

————— : ————— (7) —————

シナノオトギリ, タテヤマウツボ, ベニバナイチヤ
クソウ, オオサクラソウ, イチゲキスミレ Na 1079

————— : ————— (8) —————

ミヤマアズマギク, ミヤマキンバイ, ハクサンイチ
ゲ, クロバナヒョウタンボク, ハクロバイ Na 1080

————— : ————— (9) —————

ムシトリスマレ, シラタマノキ, タカネイバラ, コ
ケモモ, イワイチョウ

————— : ————— (10) —————

シナノキンバイ, シロウマアサツキ, グンナイフウ
ロ, ナンキンコザクラ, ウルップソウ Na 1082

————— : ————— (11) —————

キバナジャクナゲ, ハイマツ, タカネウスユキソウ,
タカネキンボウゲ, シロウマナズナ Na 1083

————— : ————— (12) —————

ミヤマムラサキ, ハハコヨモギ, タカネマンテマ,
チシマギキョウ, ミヤマウスユキソウ Na 1084

1977 (昭和52) 年

横内齋: 信州植物分布から見た釜無川斜面 Na 1086
4~7

1978 (昭和53) 年

————— : 長野県植物分布の由来 補遺 Na 1099,
19~25

丸山利雄: 戸隠の植物 陛下にお聞きいただい
た話 Na 1106, 12~19

1979 (昭和54) 年

横内齋: 戸隠の植物とその地史的分布 Na 1110,
4~16

伊藤静夫: 上水内山地帯の植物 (一) Na 1112, 12~
18 (横内文人・楯誠治)

〔新刊紹介〕横内齋 「信濃の植物分布区系」A5判
265頁 信濃教育会発行 (1979年) 2,300円。

著者は先に「長野県植物分布の由来」を著してい
るが今回の本書では論拠を詳述し区系を細分してい
る。本書は総論と各論に大別できる。総論では長野
県の植物の分布型と分布系について論述し、地史的
にみて前期の半島時代をナカネシヤ地域、後期の列
島時代をマキネシヤ地域とし、更にそれらを系列的
に細分しているが、中に偽高山帯なるものを設けて
いる。各論では上記の各分布型、分布系に属する種
を列挙し、それに産地を附記している。高令のうえ
に病後である同氏が、この長文を物したことは驚異
である。 (山吉)